

教育行政報告

最近の教育行政について報告いたします

○ 児童生徒の学力の向上とたくましい心と体の育成について

今年度の新入学児童生徒数は、小学校4校で115名、中学校3校では151名で、児童生徒総数は1,266名となり、昨年度より42名の減となっています。

学校教育の目標を「夢をもち、心豊かで、元気な子どもの育成」とし、「よりよく生きるための基礎となる力」である知識・技能の確実な習得を土台としながら、応用・発展させる力となる「活かす力」を育む学校教育を引き続き推進して参ります。

また、主体的に学習に取り組む態度の向上に力を入れ、将来のにかほ市を担う人材の育成に取り組んで参ります。

そのために、一人ひとりの「問い」を大切にし、子ども同士で協働しながら課題を解決したり、学習の成果を活用したりする場面を設定するなど、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びを進めて参ります。

何よりも、学習のきっかけに「ワクワク感」「ドキドキ感」「はてなのマークが頭をよぎる」「楽しくて仕方ない」など、楽しく学ぶことを意識した教育活動を展開できるよう、本年度キーワードに据えたスマイル&リスペクトを意識して教職員等が工夫と改善を進めます。

そして、「わかった」「できた」「もっと知りたい」という思いを高め、児童生徒のがんばりを認めていくことで自己肯定感、自己有用感の向上を図っていきます。

次に、1人1台タブレット端末のより効果的な活用と児童生徒の「情報活用能力」の育成を推進するため、GIGAスクール構想推進モデル校を核とした研修を充実させ、ICT支援員、ICTマイスターと連携を図り、日常的なICT活用と情報モラル教育の推進を進めて参ります。

また、仁賀保高等学校やTDK歴史みらい館などの関係機関と連携しながら、

プログラミング教育の実践を重ねて参ります。

さらに、本市は、独自に学校指導に卓越した教育指導員のほか外国語活動支援員を任用し、各校のニーズに応じて派遣しております。小・中学校の算数・数学、理科及び小学校外国語、中学校英語の充実を図るため、教科担当とのチームティーチングを通じた児童生徒への指導はもちろん、教師の授業づくりへの助言等、学力向上に向けた取組として十分に力を発揮しているところであります。

続いて、「にかほ地域学」については、保護者や地域住民の力を学校教育に取り込む「コミュニティ・スクール」の機能を活用しながら、ふるさとの自然や歴史、伝統文化、産業等を活かした「学び」を充実させることで、地域とともにある学校の更なる充実に努め、ふるさとに関わる教育を推進して参ります。

各学校では、「総合的な学習の時間」を中心に地域学の指導計画を立て、見学・調べ学習・体験活動などを行っています。その際、専門的な知識をもつ地域の方々に講師としてご協力いただいております。さらに、ジオパーク推進協議会が実施する発表交流会にも参加し、学習成果を地域の方々へ発信する機会としており、今年度は、象潟小学校がこの発表を担当する予定であります。

最後に、学習・生活面において、困り感のある児童生徒については、各小中学校に学校生活・学習生活サポート支援員を配置し、一人ひとりの子どもの状況に合わせて、生活面や学習面で必要な支援や助言を行い、安心して過ごせる環境づくりに努めております。これにより、子どもたちがもっている力を十分に発揮できるようサポートしているところであります。

また、教育支援センター「ぱすてる」では、様々な理由から登校が難しい児童生徒を対象に、教員免許を有した相談員3名に加え、いじめ・不登校対応の教育指導員1名が、一人ひとりに合わせた学習の場や、豊富な体験活動を提供しております。これにより、心身のリフレッシュや活力の回復を目指しています。活動を通して人との関わりや学ぶことの楽しさを感じてもらいながら、子どもたちの心の不安を軽減し、安心して過ごせる「居場所づくり」と将来の社会的自立に向けた支援を行って参ります。

○ 各学校のクマ対策について

秋田県内におけるクマの目撃情報については、冬季間にあっても頻繁に寄せ

られておりましたが、4月に入ってからほぼ毎日のように目撃されております。

本市においては、4月以降5月末現在で21件の目撃情報があり、住家が連坦する集落内での目撃情報もございました。目撃情報が寄せられたエリア内の小・中学校では、安全面を考慮し、登下校時の自家用車での送迎や外出時における注意を喚起する一斉メールを保護者に発信するなどの対応を行っています。昨年度、すべての児童に熊よけ鈴を貸与するとともに、各校には熊よけスプレーの配布をしており、これらもクマ等の予防対策のアイテムとして活用し、安全対策を強化しました。

また、すべての小・中学校が熊出没時の対応マニュアルを昨年作成し、職員は共通理解のもと、クマ出没等の連絡があった場合には、マニュアルに応じた対処により児童生徒の安全の確保に努めております。

○ 「にかほ市デジタルミュージアム」の公開について

白瀬南極探検隊記念館、象潟郷土資料館、フェライト子ども科学館及び仁賀保勤労青少年ホームの市内博物館系施設4館が収蔵する資料のデジタル化を進め、各館の所蔵資料のアーカイブについては、新たに構築した「にかほ市デジタルミュージアム」を3月24日よりウェブサイト上で公開しております。

この「デジタルミュージアム」では、デジタル化した資料の閲覧のほか、池田修三作品の刷り工程や、古文書の一部資料でくずし字を翻刻テキストと見比べできるコンテンツを公開しております。このほか、360度パノラマ撮影によるバーチャル探訪やキッズ版サイトも用意しており、学校での学習から専門的な学術研究にまで、広く利用いただけるものと考えております。

公開から5月25日までの2か月間の総閲覧数は57,309件となっております。

○ 第47回未来の科学の夢絵画展について

3月29日と30日の2日間、東京都千代田区「科学技術館」において、第47回未来の科学の夢絵画展が開催され、4月1日号市広報に掲載のように、平沢小学校3年生の作品「くまよけリュックサック」が小中学部門の最高賞「文部科学大臣賞」を、また、同校2年生の作品「自動骨とり装置」が特別賞の中の「朝日小学生新聞賞」を受賞しました。

全国からの応募総数 6,137 点の中から選考されたもので、昨年の第 46 回同絵画展における平沢小学生の「特許庁長官賞」に続く受賞で、にかほ市の子どもたちの豊かな感性と想像力が高い評価を受けたことは大きな喜びとなっております。

○ 児童生徒による各種大会等の結果について

4月19日、20日の両日に開催された本荘由利中学校春季大会において、仁賀保中学校では陸上競技男子 3,000m で優勝したほか、サッカーとソフトテニス団体が第 2 位、剣道男子団体、バスケットボールの男女、西目中・由利中との合同チームとなった軟式野球がそれぞれ第 3 位となっております。

金浦中学校では、柔道の男子 50 kg 級で第 2 位と第 3 位、男子 60 kg 級で第 3 位となっております。

象潟中学校では、ソフトテニス女子団体、本荘南中との合同チームとなったサッカーと本荘南中との合同チームの剣道女子団体、矢島中との合同チームの軟式野球がそれぞれ第 3 位の成績を収めております。

また、5月22日に開催された本荘由利中学校陸上競技大会では、仁賀保中学校が学校総合と女子総合で見事 2 年連続の優勝に輝いており、個人種目では、仁賀保中学校が 6 種目で、金浦中学校が 2 種目でそれぞれ第 1 位の優れた成績を収めております。このうち、男子 3,000m では仁賀保中学生が大会記録を更新する素晴らしいタイムで優勝しています。

○ 第 41 回奥の細道象潟全国俳句大会について

「奥の細道象潟全国俳句大会」は、今年で第 41 回目を数えます。8月2日に象潟公会堂を会場に、子どもの部及び一般の部の表彰式を行うとともに日本伝統俳句協会常務理事の星野 高士（ほしの・たかし）氏を講師に迎え講演会を開催いたします。

今年は、市制 20 周年記念大会として、一般の部に高校生を含めて投句募集します。また、会場内には池田修三作品を展示して来場者をもてなすほか、市内茶道団体により抹茶を振る舞うこととしております。

松尾芭蕉の奥の細道紀行の目的地の一つであった「象潟」を市内外に P R し、交流人口の拡大を図るとともに、小・中学生の俳句への関心を高めて参ります。

